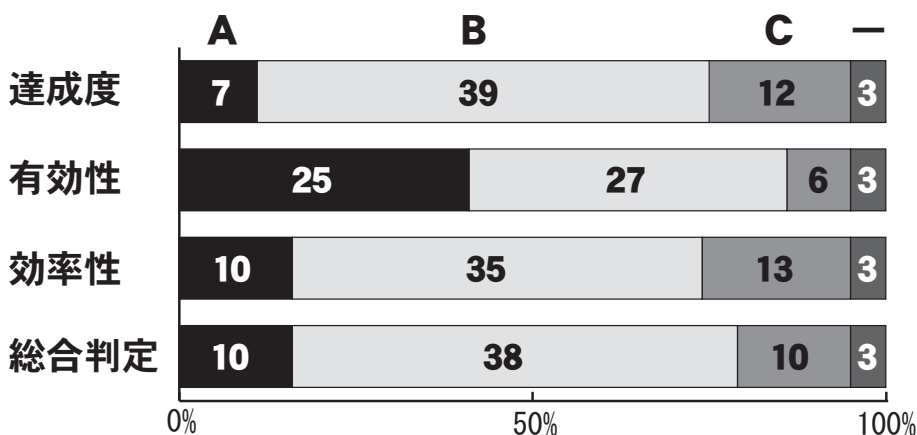


# 平成 22 年度政策評価結果

町では、平成 21 年度から第 5 次総合計画がスタートしたことを受けて、総合計画を着実に推進し、質の高い行政の実現と、住民の視点に立った成果重視の行政への転換を目指しています。政策評価のうち、昨年度試行的に実施した「施策評価」が本年度より本格実施されましたので、外部評価を含め、お知らせします。

## ◆ 施策評価

施策評価では、第 5 次総合計画に掲載されている基本的な視点（中項目）の 17 項目、施策推進の視点（小項目）の 9 項目、重点プラン（中項目）の 11 項目、全 37 項目の施策を対象とし、各部から提出のあった 61 の調書を評価しました。



	A	B	C	-
達成度	達成度が高い	概ね達成	達成できていない	判定なし
有効性	効果的	概ね効果的	効果的ではない	判定なし
効率性	効率的	概ね効率的	非効率	判定なし
総合判定	極めて良好	良好	要改善	判定なし

## 今後、これまで以上に推進していく施策について

今年度の施策評価では、該当施策の今後の方向性について、新しい判定項目を用いて評価を行いました。その中で、今後、これまで以上に推進していく施策について、次のとおりの結果となりました。

施策名	判定	評価意見
学校教育・青少年教育の推進	1	教育力の向上のための各施策が学力や体力の向上につながるよう、取り組みの精査・推進に努めること。
子育て支援の推進	1	認定こども園の開園やふとみ保育所の民間委託の実施といった保育行政の転換時期であり、これまで以上に町民へのサービスの向上につながるよう、十分に留意して施策を推進すること。
商工業・観光の振興、雇用対策	1	商工業、観光、企業誘致、起業促進など、戦略的に施策を検討すること。
財政基盤の建て直し	3	実質公債費比率や町債残高は低下してきているが、依然高い水準にあることから、今後もこれまで以上の財政抑制が必要となる。
地域の魅力・ブランドの創出	3	関連部局が十分連携し、協議を行った上で取り組みを進めるよう努めること。
北海道医療大学との連携・交流	3	北海道医療大学との意見交換を深め、今後の連携した取り組みをさらに良いものにする必要がある。 北海道医療大学との新しい分野における連携と学生町内居住者の回復が喫緊の課題である。
地域ブランドの創出	1	関連部局が十分連携し、協議を行った上で取り組みを進めるよう努めること。
各活動団体の活動の場づくり	1	ふれあい倉庫の今後の活用について、現在の活用形態を勘案し、関連部局が連携して検討すること。

《今後の方向性 判定項目の定義》

- 1：計画通りに進行しており、今後はさらに推進していく 3：計画に対してやや遅れており、今後はこれまで以上に推進していく  
2：計画通りに進行しており、今後も同様に推進していく 4：計画に対してやや遅れているが、状況を見ながら進める

## ◆ 町民・有識者（外部委員）による評価結果

外部委員による政策評価委員会では、第5次総合計画に基づき設定した37ある施策の中から、委員から特に関心の強かった5つのテーマに沿って、8施策を評価対象として選定し、住民の立場からの評価を実施しました。

そのうち、4つのテーマに係る評価内容を紹介します。

評価  
提案

### 子どもの教育・活動 （特にスポーツ活動）

#### ◆現状と施策の評価

- ・総合型地域スポーツクラブの取り組みなど、体力向上への取り組みは大いに評価できる。今後もスポーツ活動に補助金等のバックアップを続けていくべき。
- ・事業の実質的な効果あまり見えていない。

#### ◆評価委員会からの提案

- ・「さわやか駅伝」や、子ども会育成会の「大運動会」といった事業には、行政支援を継続・強化すべき。
- ・子ども会育成会事業は、部活動やスポーツ少年団などの活動により参加できないことがあり、行政のサポートによって上手く調整できるよう努めてほしい。
- ・各スポーツ少年団も活発な活動を行っているので、総合型地域スポーツクラブと連携を取り、活動内容を充実して行ってほしい。

評価  
提案

### ブランドの創出

#### ◆現状と施策の評価

- ・町には、潜在的な地域ブランドは多数存在する。
- ・大都市の近隣でありながら知名度が低いので、今後はよりPRに力を入れ、特に札幌市民に売り込むべき。

#### ◆評価委員会からの提案

- ・当別町を連想させるロゴマークの入ったステッカーやポスターを掲示し、一目で当別町の産品だと思わせるような取り組みを行うべき。
- ・地域ブランドは、目に見える農産物以外に、「他にはないイベント」や「地域活動の特異性」など、「人の力」で創出する発想も大切である。
- ・「地域ブランド」＝「農産物」という既成概念から少し離れることも必要である。

評価  
提案

### 町内会活動を中心とした 地域コミュニティ

#### ◆現状と施策の評価

- ・町の「行政推進員」と「地域担当職員」制度は、町民と役場職員の相互乗り入れであり、大いに評価される。
- ・地域担当職員制度は、町内会活動を活性化させるものだと思うが、スタートしたばかりで十分に機能していない。
- ・若い人が町内会活動に参加していない状況にある。

#### ◆評価委員会からの提案

- ・制度運用は、規則優先ではなく、町内会及び住民が望む方向を把握し、より相談しやすい雰囲気づくりなどに取り組む柔軟さを期待する。
- ・地域住民の連帯感の醸成のため、町内会の加入促進、住民と行政の円滑な情報のやり取り、安全安心のまちづくりに向け、行政は強力な取り組みを推進するべき。

評価  
提案

### 子育て支援への高齢者のかかわり

#### ◆現状と施策の評価

- ・少子高齢化が進む中、子どもと高齢者の問題を別々ではなく、両者を融合して考えていくことも必要である。
- ・学校支援地域本部事業には、定年を迎えた方が積極的に協力しているようで大いに評価できる。

#### ◆評価委員会からの提案

- ・子育て支援に、経験豊富な高齢者の参加を促す施策を期待する。具体的には、保育所・幼稚園・学童保育などに、高齢者のボランティアを積極的に活用するなど。
- ・社会福祉協議会の福祉委員制度を充実・発展させ、独居だけでなく高齢夫婦のみの世帯や、子どもたちに対応した「ご近所見守り隊」のような気楽な活動を、町内会単位で広げることが必要である。

## ◆ 政策評価のまとめ

本年度の評価は、各施策や事務事業の実施規模が、町の現状を踏まえたものとなっているかを評価の判断基準としました。外部評価については、施策評価を本格実施としたことを踏まえ、評価テーマを設定し、かつ、昨年度よりも多岐にわたる施策を選定し、前年度よりさらに踏み込んだ審議をしていただきました。施策評価・外部評価のほかに、事務事業評価を61事業実施しています。政策評価の詳しい内容や評価結果は、1月中に町のホームページにより公表します。

#### ▼問合せ 企画課総合調整係

(☎ 23 - 2393/FAX23 - 3206/E-mail:kikaku@town.tobetsu.hokkaido.jp)

